

横浜写真とは

日本の写真館は、万延元(1860)年に横浜の居留地で開業したオーリン・フリーマン(Orrin Erastus Freeman, 1830-1866)を起点としています。横浜は、写真発祥地として下岡蓮杖(1823-1914)、フェリーチェ・ベアト(Felice Beato, 1834-1909)、ライムント・フォン・シュティルフリート(Raimund Freiherr von Stillfried, 1839-1911)、日下部金兵衛(1841-1934)など歴史に名を残す多くの写真家が活動する拠点となりました。

フェリーチェ・ベアトを起点とし、彼らに共通する優れた功績として知られるのが、「横浜写真」と一般に呼ばれる美しい着彩技術によって彩られた写真作品です。横浜写真は、幕末期には日本文化を訪日外国人に伝えるために制作され、明治に入ると更に進んで欧米各国へ輸出される重要な産業として制作されました。欧米の人達は、手彩色によって制作された日本のカラー写真を珍重し、現在でも大切に保存しています。フランス国立ギメ東洋美術館は、世界最大の日本初期写真コレクションを誇りますが、この中核をなすのが横浜写真です。

デジタル写真が中心となった現在、人の手による彩色が施された写真は、匠の技と光学技術が融合した類い希な実体を持つ作品であり、記録を超えて人々の記憶に語り続ける写真です。

東京都写真美術館

三井圭司